



# 「ささえ～る」

広報委員会

※『ささえ～る』とは、「佐々木」・「ささえる」・「エールを送る」の意味を込めた造語です。

作業療法  
作品展



院長

菊野恒明

日本医師会認定の産業医になって5年が経って、更新の時期を迎えている。私は佐々木病院とフィールド・ラベンダーの産業医を兼ねている。時々、職場巡視と称して、事務長と一緒に病院を歩いて回る。職員の皆が安全に安心して働ける職場環境になっているかをチェックする。

「佐々木病院の建物はいかにも古くさくて」と、私の囲碁の仲間が言った。その通りかもしれない。「外装だけでもやり直したらいいのに」と言う。その通りだろう。しかし職場巡視して分かったことは、中はとても清潔で、掃除が行き届いているということだ。着任して6年経ってこの

病院に愛着を感じている。いつまでも佐々木病院が存続してほしいと願ってやまない。

また毎月行われる労働安全衛生委員会にも出席している。各委員の熱心な議論、取り組みぶりに圧倒され、感心している。他の委員会にも出るが、佐々木のスタッフは本当に真面目だ。企業は人なりという。職員の熱意は病院の財産だと思う。

病院の永続を信じて、コツコツと日々を積み重ねて行きたい。それは一人では出来ない。スタッフと共に。患者さんと共に。



## 富山市医師会看護専門学校を卒業して

当院では、看護職になりたい職員を積極的に支援しております。今年は3名の職員が、新たに富山市医師会看護専門学校に入学することができました。皆さん、学業と仕事を両立しながら、一生懸命に頑張っております。また、今年3月には、無事試験に合格し、看護職として当院で働き始めた方もいます。今回、代表して卒業された2名の方に学生生活を振り返り、感想を書いていただきました。

「看護師になろう!」と6年前に急に思い立ち、当院で看護補助として働き始めました。その1年後から午前中は仕事、午後は看護学生という生活が5年間続き、今春、無事卒業することができました。5年間の仕事、学校、実習生活はとても大変なものでしたが、多くの学びがありました。その中でも一番大切であると感じたのは「個別性の看護」というものでした。

病院に入院すると「退院」という目標を設定しますが、そこまでの行き方というものには人それぞれ、十人十色で

す。身体的にも、精神的にも、社会的にも状況は異なります。その中で患者さんの個々に合わせたコミュニケーションをとり、その人にあった行き方を共に見つけて、退院に向けて看護、支援していくことが大切であると学びました。

今後は、佐々木病院の看護師として、今まで勉強してきたことや、社会での経験を生かして「よりよい個別性の看護」を目指して、日々の業務に邁進していきたいと思っています。  
第1病棟 看護師 小杉

3月に富山市医師会看護専門学校を卒業し、准看護師の資格を取得することができました。看護学生としての2年間は私にとって長いものでした。医療についての知識も経験もないところからのスタートで、仕事、学業、育児にと時間に追われる毎日でした。実習が始まると事前の準備や予習、また学校の課題などをこなさなくてはならず、寝不足が続きました。

私一人ではきっと乗り越えられなかったことばかりで、

学校の同級生や先生、家族、佐々木病院の皆さんに支え、助けられながらなんとか無事に卒業まで辿り着くことができたと思っています。

准看護師として、これから佐々木病院で多くのことを学び、経験し、自分の知識として吸収していきたいです。自分の目標を見失わず、患者さんに寄り添い続けられるよう一步一步を大切に歩んでいきたいと思っています。  
第2病棟 准看護師 中村

## 【新企画】職員コラム

新企画として、『職員コラム』を連載することとなりました。当院で働いている職員に、好きなお題で記事をリレー方式で書いてもらいます。病院の雰囲気やそこで働く職員の人柄が皆様に伝わればと思っております。第1回目は、当院事務長 浦上に執筆を依頼しました。どうぞお楽しみください。

### ～人間力～

たくさんの職員に支えられ30年が過ぎました。多くの職員なくして今の仕事を続けている事は出来ていなかった事と思います。「いつまでもこの病院で働きたい」と思ってもらえるようにならなければ、職員がいなくなり患者に良いサービスが提供できなくなるという危機感がありました。

職員の満足度が患者満足度に影響を与えることはわかっています。ワーク・ライフ・バランスも考え人材育成に努めてきたつもりですが、いつの時代も医療やサービスの質は人によって左右され、医療現場では資格が重視されが

ちな傾向にあります。

しかしながら、患者と向き合うには「専門性」も勿論大切ですが、モラルを持った集団社会の一員としての「社会性」や広く豊かな心で信頼される「人間性」が必要だと考えています。病院は患者が喜ぶ品質の良いサービスと、安心を提供する企業に他なりません。

持論ではありますが、「医療人である前に社会人であれ、社会人である前に人であれ」を今後も継続して患者、患者家族、職員、職員家族も含めサポートしながら共に人間力向上に努めていければと考えます。

事務長 浦上

## 新入職員インタビュー

①佐々木病院の印象は？

②趣味は

③今後の抱負を一言で！

西尾（看護師）

- ① 患者様の病状の奥の広さを感じました。
- ② ヒ・ミ・ツです。
- ③ 個人衛生に気を配りながら、佐々木病院の発展に寄与できるよう頑張ります。



近藤（看護師）

- ① 初めて見学に伺った際、職員の対応がとても丁寧と感じました。又、施設が清潔で温かみを感じました。
- ② 音楽鑑賞（多ジャンル）、読書、スキューバ Diving
- ③ 佐々木病院の一職員として、地域の精神科医療・看護に貢献していきたいです。看護師人生の集大成にしたい。



丸山（准看護師）

- ① 精神科の病院＝怖いというイメージでしたがスタッフの方がとても優しく対応され良い印象を受けました。
- ② スキー、スノーボード
- ③ コミュニケーション能力のスキルアップと患者様との信頼関係を築き、看護技術の向上に頑張ります。



佐川（准看護師）

- ① 接遇ができています。
- ② 特になし
- ③ 早く佐々木病院のやり方に慣れたい。

中塩（精神保健福祉士）

- ① 笑顔が多く、ゆったりとした雰囲気。
- ② 本屋さんや雑貨屋さんに行くのが好きです。
- ③ 一つ一つを丁寧に、誠実に進められるようになるのが目標です。よろしくをお願いします。

志甫（作業療法士）

- ① どの職員の方々も優しく、親しみやすい病院だと感じました。
- ② のんびり散歩
- ③ 「作業」を通して、やりがいや楽しみを感じてもらえる支援ができるよう精進していきたいと思います。



丸澤（看護補助）

- ① 雰囲気がとても良く、話のしやすい環境と感じました。
- ② だらだらする事
- ③ 少しでも患者様の役に立てるように、学び努力したく思います。

中島（看護補助）

- ① 温もりがあり、やわらかい感じでした。職員の方も明るく優しいです。
- ② 寝る事、猫と遊ぶ事、一人でドライブ
- ③ しっかり学び、学校・仕事・家事のトリプルワークを成し遂げます。常に前向きに考え行動し、実りある人生を送りたいです。



村上（作業療法士）

- ① スタッフが明るく親切で話し掛けやすい職場だと思いました。
- ② アクアリウム、ドライブ、寝ること
- ③ 一日でも早く仕事に慣れて、プロフェッショナルな仕事ができるよう自己研鑽していきたいと思っています。



白川（看護補助）

- ① 楽しい優しい雰囲気
- ② 音楽鑑賞
- ③ 学生と仕事の両立は大変だと思うので、頑張っていきたいです。

## C V P P P 普及委員会

CVPPPとは、「包括的暴力防止プログラム」の略です。医療の現場において、病状により不穏・興奮にある患者様に対し、安全を確保しながら適切な介入や暴力が起こらないようにするために早期介入などを行います。

以前はCVPPPのトレーナー(委員)が少なく不定期的な委員会でしたが、本年度から正式に委員会となり、男性5名、女性2名で活動していくこととなりました。

主な活動内容としては、病院内の研修やマニュアル作成、トレーナーのフォローアップをし、普及させるための試みを行っております。院内研修においては、まだまだ多くのことを伝えていかなければと思っています。

現在いるトレーナーの知識や手技の向上はもちろんですが、今後は役職や業種に関わらず、佐々木病院の多くのスタッフの方にトレーナー養成研修に参加してもらい、トレーナーが増えることを望んでいます。

まだまだ駆け出したばかりの委員会ではありますが、皆様のご協力を頂けたら幸いです。委員一同、普及のために頑張りたいと思います。

CVPPP 普及委員会  
委員長 村上



## ひな祭り、カラオケのど自慢レポート

平成28年3月に、ひな祭りを開催しました。今回のテーマは“歌の力”です。歌の持つ力を信じ、カラオケ大会にしましたが、紅白戦ではなく個人戦とえばいいのか、のど自慢方式にしてみました。

例年のごとく参加希望者も、観覧希望者も多数で、まだ明けきらぬ冬の寒さなど吹き飛ばす熱気でした。皆さん思い思いの曲に、それぞれの想いを込め熱唱しておられました。

そして、今回はテーマにちなみもう一つ企画しました。イントロ早押しクイズです。皆さんの歌に対する耳の良さや判断が凄く、ほんの一瞬しか曲が流れないにもかかわらず、解答の速いこと速いこと。まさに、刹那のタイミングでした。こちらの予想を超える解答率に、用意していた曲が足りなくなるかと肝を冷やしました。

歌、曲というものに対して、誰にも個人個人の想いや思い出があります。のど自慢、イントロクイズどちらにも言えますが、そういうものに秘められた力は底無しです。その可能性を信じ、療養生活の箸休めになるようなものを今後も計画していきたいと思います。

活動療法委員会 福井



## 家族教室レポート

平成28年3月7日(月)

3ヶ月に1回実施している家族会ですが、今回は、2人の子供さんが統合失調症という県家族連合会理事の松村様ご夫妻を講師にお迎えしました。

ご夫妻が、子供さんの発病に直面して、親としての向き合い方や家族会を通して受け入れていった過程をお聞きました。共感し涙ぐんでいるご家族の姿もありました。その中で印象に残ったのは①薬の治療だけではなく親の愛情とコミュニケーションが大切。②地域の人達に隠すのではなく病気を話すことにより地域全体で協力してもらえる。③親が受容してあげなければ子供は孤立してしま

う、ということでした。

座談会では、ご家族の、これまで苦労したことや、現在も落ち着かない時があるご本人のことなどを伺いました。皆さん、自分のことのように思われ、表情が和らいだ方もおられました。

今後もご家族の気持ちに沿った企画を考え、またご家族の輪が広がる場にしたいと思います。

デイケアスタッフ 西田

## 編集後記

日曜日の夕方になると、お馴染みのオープニングが流れてきます。あの国民的大喜利番組も、なんと50周年だとか。一方、我々が「ささえ～る」は発行開始からもうすぐ5年目を迎えます。まだまだこれからといったところでしょうか。笑点と同じくメンバー(編集担当)が入れ替わることもあるでしょうが、これからも末永く皆さんにお届けできるといいなあ、とテレビを眺めながら思うのでした。

広報委員会 清水



## 医療法人社団 重仁 佐々木病院

住所 〒939-8073 富山県富山市大町1番地  
電話 (076)425-2111 / FAX (076)425-2112  
ホームページ <http://www.sasakihp.or.jp/>

精神科デイケア・精神科デイナイトケア・精神科ショートケア

## アンダーテ

電話 (076)423-2114(直通)

指定障がい福祉サービス事業所

## フィールド・ラベンダー

住所 〒939-8073 富山県富山市大町3-4  
電話 (076)495-1555 / FAX (076)495-1666  
ホームページ <http://www.field-lavender.net/>